



ディスク暗号化ソフト  
**Secure Guard Manager**

ユーザーズマニュアル

2011年7月 第2.3版



ラトックシステム株式会社

 **RATOC Systems, Inc.**

<ご注意>

- 1.本書の著作権はラトックシステム株式会社にあります。
- 2.本書の内容につきましては万全を期して作成しておりますが、万が一不審な点や誤りなどお気づきになりましたらご連絡お願い申し上げます。
- 3.ソフトウェアに重大な瑕疵があった場合、欠陥の程度に応じて弊社の判断に基づき、媒体の交換もしくは修正プログラムの提供、解決方法の案内、又は代金返還をするものとします。また、ソフトウェアの品質・機能がお客様の特定の使用目的に適合することを保証するものではなく、本製品の選択導入の適否はお客様の責任とします。
- 4.本製品の瑕疵に関して、前 3 項に定める以外の責任を負いません。法律上の請求の原因を問わず、本製品の使用又は使用不能から生ずる派生的財産的損害及び精神的損害、ならびに直接的又は間接的な営業上の損害については、弊社は責任を負わないものとします。いかなる場合においても、弊社の責任はお客様が実際に支払った本製品の購入金額を上限とします。
- 5.本書の内容は、将来予告無く変更することがあります。
- 6.本製品を安全にお使いいただくために、以降の記述内容を必ずお守りください。

本マニュアルでは、いろいろな表示をしています。これは、本製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々に加えられるおそれのある危害や損害を未然に防止するために目安となるものです。その表示と意味は次のようになっています。内容をよくご理解の上、お読みください。



この表示を無視して誤った取り扱いをすると、データを失ったり、機密を要するデータが公開されたり、システムへのアクセスを拒否される等の危険があります。



この表示を無視して誤った取り扱いをすると、本製品の機能が損なわれ、本マニュアルに記載された手順通りの動作ができなくなる可能性があることを示しています。



次にキーボード入力する場所やボタンをクリックする場所を示します。

# 目次



本製品をご利用される前に、第一章で説明されている内容をご理解頂くと共に、必要な準備作業を行ってください。

本マニュアルでは、簡略化のために“ディスク暗号化ソフト Secure Guard Manager”を“SGM”と呼びます。

## 第一章 準備

SGM のメニュー等に関する操作方法と、最初に行う必要がある準備事項について説明を行っています。

1-1.はじめに	3 頁
1-2.ソフトウェアのインストール	5 頁
1-3 操作概要	7 頁
1-4 ユーザ登録	8 頁
1-5 暗号化ディスクの作成	14 頁

## 第二章 使用

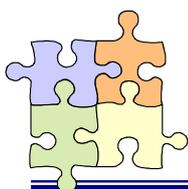
実際に SGM を使って頂くための操作方法について説明を行っています。

2-1.暗号化ディスクを使用する	17 頁
2-2.複数のパソコンで暗号化ディスクを利用	20 頁
2-3 複数のユーザで暗号化ディスクを利用	21 頁

## 第三章 管理

SGM の各種設定項目の解説および運用管理の方法に関する説明を行っています。

3-1.動作環境を設定する	26 頁
3-2.アクセスログをファイルに記録する	28 頁
3-3 暗号化ディスクを通常のディスクに戻す	30 頁
3-4.体験版を製品版として登録する	32 頁
3-5 ソフトウェアのアンインストール	33 頁
3-6 エラーメッセージと対処方法	35 頁
3-7 製品に関するお問い合わせ	38 頁



### 1-1. はじめに

“ディスク暗号化ソフト Secure Guard Manager”（以下、SGMと呼ぶ）は、固定ディスクやリムーバブルディスクの中身をドライブ丸ごと暗号化するためのソフトウェアです。一度、暗号化ディスクの作成作業を行うだけで、ディスクに読み書きされるデータは自動的に暗号化・復号化されますので、通常のディスクと同じような感覚で読み書きを行うことができます。

本ソフトウェアで暗号化ディスクに対して自由に読み書きできる状態を“アクセス開始”状態、読み書きできない状態を“アクセス停止”状態と表現しています。本ソフトウェアより、暗号化ディスクに対してアクセス開始・アクセス停止の切り替えを行うことにより、暗号化ディスクに対する読み書きを制限することができます。例えば、長時間席を離れる時には暗号化ディスクをアクセス停止状態にすることにより、誰もディスクの中身を見ることができないようにします。

#### 製品特徴

-  ディスク単位で丸ごと暗号化することができます。固定ディスク、リムーバブルディスクの両方をサポートしています。また、SATA/eSATA/IDE/USB/IEEE1394 等のパソコンへの接続形態を問いません。
-  **[制限事項]**
  - 1.OS がインストールされているディスクの暗号化は行うことができません。また、暗号化ディスクに OS をインストールすることはできません。
  - 2.ソフトウェア RAID には対応していません。
  - 3.パーティション単位、フォルダ単位、ファイル単位での暗号化はできません。
  - 4.SGM 以外の暗号化ソフトウェアおよび暗号化ハードウェアと共存させて使用した場合の動作保証は致しません。
-  暗号化ディスクへのアクセスを許可するだけで、ユーザは暗号化・復号化操作を意識することなくファイルの編集操作を行うことができます。
-  暗号化ディスクにデータの読み書きを行うとリアルタイムで暗号化・復号化処理が行われます。動画等のストリーミングデータを、録画しながら暗号化することができます。同じように、復号化しながら再生することもできます。
-  暗号化によるディスクリードライトパフォーマンスの劣化は殆どありません。
-  会社で編集したファイルが保存されている暗号化ディスクを自宅に持ち帰り、自宅で暗号化ディスクに保存されたファイルを開いて編集作業を行うことができます。
-  暗号化ディスクの作成者（管理者）が許可したユーザは、暗号化ディスクを共有して使用することができます。
-  ネットワークに対応していません。また、ネットワーク上での情報漏えいを防止するものではありません。
-  SGM Rev.2.0 より指紋センサー SREX-FSU1/FSU1G および SREX-FSU2 を利用した指紋認証をサポートしました。これまでのパスワード認証と併せてご利用頂くことができます。

## 動作環境

---

- サポート OS: Windows 2000 SP4 / Windows XP SP3 / Windows Vista SP2 / Windows 7 SP1 以上。  
32ビット/64ビット両対応。日本語版のみ。
  - CPU/メモリー: Pentium 1GHz 以上、256MB 以上を推奨
  - ファイルシステム: NTFS/FAT32/FAT16
    - ⚠ ベージックディスクのみ対応しています。ダイナミックディスクには対応していません。
    - ⚠ exFAT には対応していません。
  - HDD 空き容量: 30MB 以上の空き容量が必要
  - 対応ストレージ
    - ・リムーバブルディスク(SATA/eSATA/IDE/USB/IEEE1394 接続)
    - ・外付ハードディスク(eSATA/IDE/USB/IEEE1394 接続)
    - ・USB フラッシュメモリ
    - ・メモリーカード(SD/MMC/コンパクトフラッシュ/マイクロドライブ/メモリースティック/xD ピクチャカード)
    - ⚠ 1.USB メモリーカードリーダーはファームウェアによって使用できない製品があります。動作確認済みメモリーカードリーダーについては弊社ホームページにてご確認ください。
    - 2.USB マスストレージ機能をもったオーディオプレーヤー、iPod、デジタルカメラ、ビデオカメラ、携帯電話などには対応していません。
    - 3.CD、DVD、zip、FD、PD、ORB には対応していません。
    - 4.セクタサイズが 512byte 以外のストレージには対応していません。
    - 5.容量が 2TB を超えるストレージには対応していません。
- 動作確認済み機器については、弊社ホームページにてご確認ください。
- 対応指紋センサー
    - ・SREX-FSU1/SREX-FSU1G(32ビット OS のみに対応)
    - ・SREX-FSU2(Windows XP 以降の 32ビット OS、64ビット OS に対応)



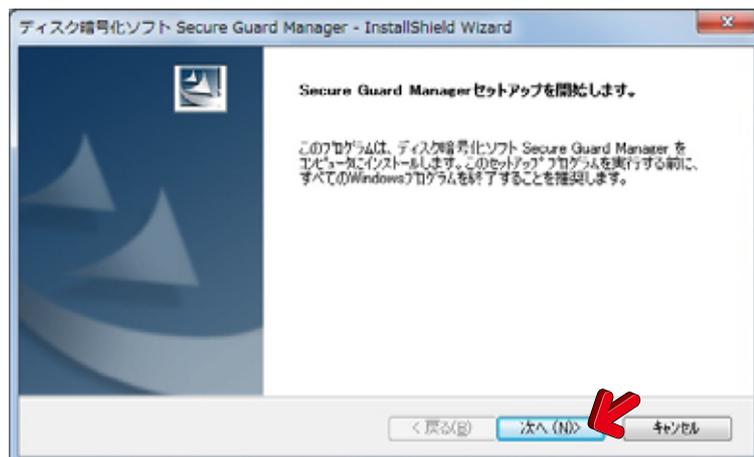
## 1-2. ソフトウェアのインストール

SGM のインストール手順を説明します。

### ● インストール手順

#### ステップ 1

製品添付の CD-ROM に格納された「RATOC-SecureGuardManager-020201-Setup.exe」をダブルクリックします。「次へ」をクリックします。



#### ステップ 2

使用許諾契約の内容を文末までご一読いただき、契約内容に同意して頂ける場合は「使用許諾契約の全条項に同意します」にチェックを入れて、「次へ」をクリックします。



#### ステップ 3

ユーザ名と ProductKey を入力して、「次へ」をクリックします。



体験版としてインストールされた場合、製品版へ変更するための手順は「3-4. 体験版を製品版として登録する」を参照してください。



#### ステップ 4

インストール先を確認して、「次へ」をクリックします。  
インストール先を変更したい場合は、「変更」ボタンをクリックしてインストール先を指定します。



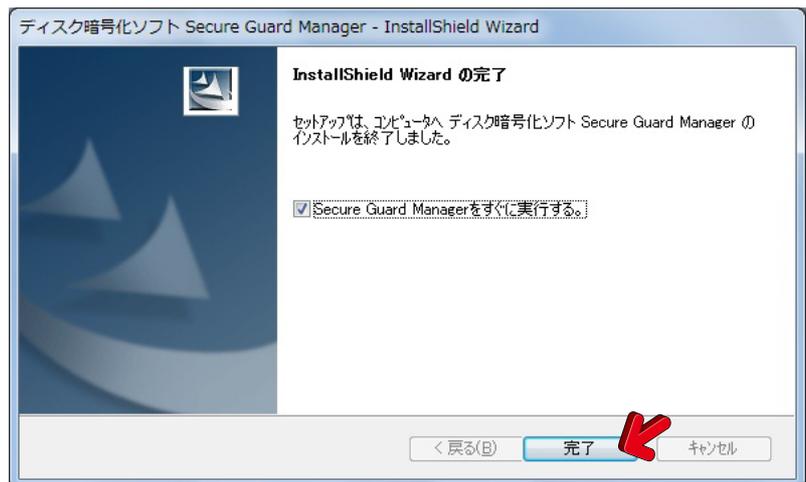
#### ステップ 5

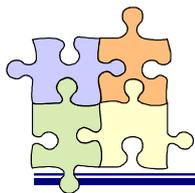
インストールが完了するまで時間がかかることがあります、そのままの状態でお待ちください。



#### ステップ 6

インストール作業が完了しました。「完了」ボタンをクリックします。  
「完了」ボタンをクリックすると、「Secure Guard Manager をすぐに実行する。」にチェックを入れると、Secure Guard Manager がタスクトレイに常駐します。





## 1-3. 操作概要

SGM はタスクトレイに常駐し、ディスクの脱着等のイベントを監視します。

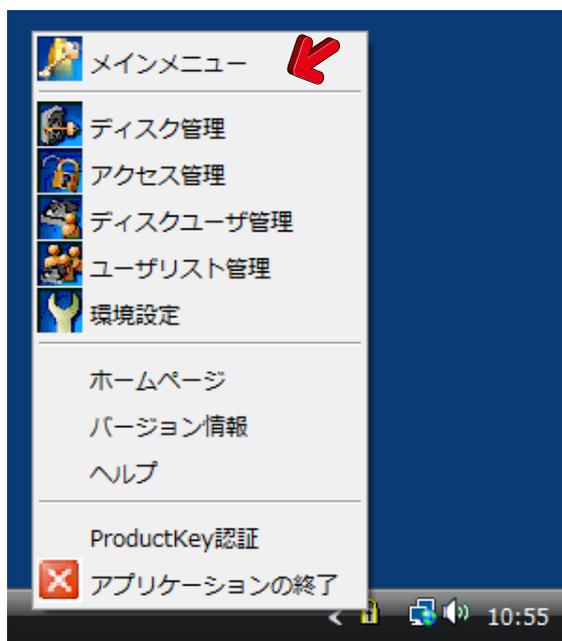
### ● タスクトレイアイコン

タスクトレイに右画面の SGM のアイコンが表示されます。



### ● アイコンメニュー

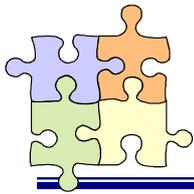
SGM のアイコンを右クリックするとメニューが表示されます。ここから各機能呼び出します。



### ● メインメニュー画面

タスクトレイに常駐している SGM のアイコンをダブルクリックするか、右クリックメニューから「メインメニュー」を選択すると、右のメインメニュー画面が表示されます。各項目のアイコンへマウスを動かすと、右のエリアに説明が表示されます。





## 1-4. ユーザ登録

暗号化ディスクを作成する前に予めユーザ登録を行ってください。ユーザ登録は「ユーザリスト管理」から行うことができ、ユーザ名・パスワード・指紋データの登録を行います。一度ユーザ登録を行っておくことにより、暗号化ディスクを作成する際には登録したユーザリストからインポートすることができますので、暗号化ディスクを作成のたびに指紋登録を行う必要はありません。



指紋センサーを利用しない場合は、ユーザ登録を行わないで暗号化ディスクの作成を行うことができます。指紋センサーを利用する場合は、最初にユーザ登録を行う必要があります。

### ● 新規にユーザを登録する

#### ステップ 1

メインメニュー画面から「ユーザリスト管理」を選択します。  
右画面の「ユーザの追加」ボタンをクリックします。

ユーザ名	指紋センサー	登録日付	更新日付

#### ステップ 2

右画面より「ユーザ名」・「パスワード」・「ヒント」を入力し、「登録実行」ボタンをクリックし、ユーザ登録作業を完了します。**ステップ 3～ステップ 5**の操作は必要ありません。  
指紋センサーを利用する場合は、「指紋を登録する」をチェックします。**ステップ 3**のように指紋登録画面が表示されます。

ユーザ名を入力してください。  
sakamoto

パスワードを入力してください。  
\*\*\*\*\*

パスワードを再入力してください。  
\*\*\*\*\*

パスワードのヒントを入力してください。  
誕生日

指紋を登録する

パスワードの安全性  
中



パスワードは安全性が「中」以上で表示されるデータを使用して頂くことを推奨致します。

3-1.動作環境設定のパスワードチェックの設定で、「安全性の低いパスワードは使用しない。」にチェックが入っているとパスワード登録時安全性の低いパスワードの登録は行えません。

### ステップ 3

右画面の指先に表示されている□マークをチェックして指紋の取得を行う指を指定した後、「指紋取得」ボタンをクリックします。

ガイドライン(赤色でメッセージが表示されているボックス)に表示されるメッセージに沿って、センサーに指を置いて指紋登録を行います。

Secure Guard Manager

ユーザー名を入力してください。  
sakamoto

パスワードを入力してください。  
\*\*\*\*\*

パスワードを再入力してください。  
\*\*\*\*\*

パスワードのヒントを入力してください。

誕生日

指紋を登録する

スコア  
1回目  
0  
2回目  
0  
3回目  
0

指紋センサー  
SREX-FSU2

↓ 選択した指    ✓ 登録済みの指  
✓ 取得した指    □ 未登録の指

指紋取得ボタンを押してください

指紋取得    登録実行    キャンセル



SREX-FSU2 を接続しているにもかかわらず「指紋センサーが接続されていません」とエラーメッセージが表示される場合は、以下の手順でドライバの再インストールを行ってください。

- (1) デバイスマネージャーで「Validity Sensor」を右クリックして「ドライバの更新」をクリック
- (2) 「いいえ、今回は接続しません」を選択して「次へ」をクリック
- (3) 「一覧または特定の場所からインストールする」を選択して「次へ」をクリック
- (4) 「検索しないでインストールするドライバを選択する」を選択して「次へ」をクリック
- (5) 「Validity sensor(VFS201)」ではなく「Validity Sensor」を選択して「次へ」をクリック
- (6) 「完了」をクリック

#### ステップ 4

通常、1指につき 3 回の指紋キャプチャを行います。

最後に 3 回キャプチャした指紋画像の中で最も画質の良かった画像(スコアの値が最高の画像)が青色で表示されます。

Secure Guard Manager

ユーザー名を入力してください。  
sakamoto

パスワードを入力してください。  
\*\*\*\*\*

パスワードの安全性  
パスワードを再入力してください。  
\*\*\*\*\*

パスワードのヒントを入力してください。  
誕生日

指紋を登録する

↓ 選択した指    ✓ 登録済みの指  
✓ 取得した指    □ 未登録の指

指紋センサー  
SREX-FSU2

スコア
1回目
42
2回目
0
3回目
0

指を水平に置いてください

指紋取得中止    登録実行    キャンセル

最低2指以上の指を登録していただくことを推奨します。

 1指のみの登録の場合、万一事故等でその指を負傷してしまうと認証できなくなることがあります。

Secure Guard Manager

 2本以上の指の登録を推奨します。別の指を登録してください。

OK

## ステップ 5

「登録実行」ボタンをクリックして登録作業を完了します。

Secure Guard Manager

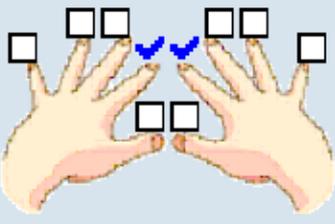
ユーザ名を入力してください。  
sakamoto

パスワードを入力してください。  
\*\*\*\*\*

パスワードを再入力してください。  
\*\*\*\*\*

パスワードのヒントを入力してください。  
誕生日

指紋を登録する



スコア
1回目
34
2回目
31
3回目
34

指紋センサー  
SREX-FSU2

指紋取得終了

指紋取得      登録実行      キャンセル

## ユーザ登録情報の変更

### ステップ 1

メインメニュー画面から「ユーザリスト管理」を選択します。

右画面より登録情報を変更するユーザを選択して、「ユーザの変更」ボタンをクリックします。



Secure Guard Manager

登録ユーザリスト

ユーザ名	指紋センサー	登録日付	更新日付
sakamoto	SREX-FSU2	2008/10/2	2008/10/2
inoue	SREX-FSU2	2008/10/2	2008/10/2
akai	-	2008/10/2	2008/10/2

ユーザの追加      ユーザの変更      ユーザの削除

閉じる

### ステップ 2

パスワードの変更、登録された指紋の変更・追加等を行うことができます。

変更作業完了後、「登録実行」ボタンをクリックします。



Secure Guard Manager

ユーザ名を入力してください。  
akai

パスワードを入力してください。  
\*\*\*\*\*

パスワードを再入力してください。  
\*\*\*\*\*

パスワードの安全性: 中

パスワードのヒントを入力してください。

誕生日

指紋を登録する

指紋取得状況:

- ↓ 選択した指
- ✓ 取得した指
- ✓ 登録済みの指
- 未登録の指

指紋取得終了

指紋取得      登録実行      キャンセル

## ユーザ登録情報の削除

### ステップ 1

メインメニュー画面から「ユーザリスト管理」を選択します。

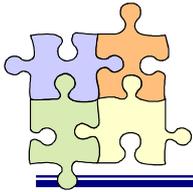
右画面より削除するユーザを選択して、「ユーザの削除」ボタンをクリックします。



### ステップ 2

削除して良い場合は、「はい」のボタンをクリックします。





## 1-5. 暗号化ディスクの作成

データの暗号化を行うためには、暗号化ディスクの作成作業を行います。

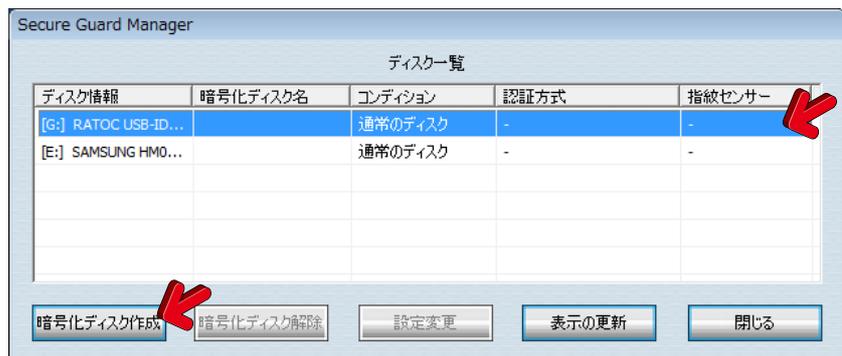


1. 暗号化ディスクの作成を行うと、ディスクの内容は初期化されます。保存されていたデータは全て失われますので、必要なデータは予めバックアップしておく必要があります。
2. 指紋センサーを利用する場合は、先に 1-4 項のユーザ登録を行う必要があります。

### ステップ 1

メインメニュー画面から「ディスク管理」を選択します。

右画面より暗号化したいディスクを選択して、「暗号化ディスク作成」ボタンをクリックします。



1. OS がインストールされているディスクは、リストに表示されません。
2. 未フォーマットの新品ディスクや、MAC OS 等の Windows 以外の OS でフォーマットされたディスクをセットした場合、コンディションの欄が「メディア未挿入」と表示される場合があります。その場合は、Windows のディスクの管理からディスクの初期化を行ってください。

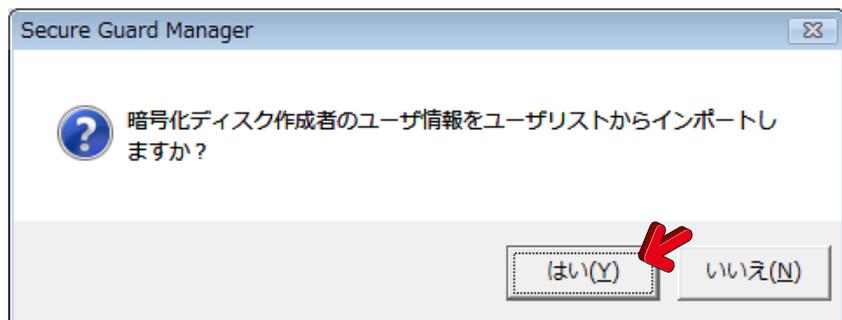
### ステップ 2

右の確認メッセージが表示されます。

1-4 項のユーザ登録が完了している場合は、「はい」をクリックしてユーザ情報をユーザリストからインポートします。

ここで「はい」をクリックした場合は、「[ステップ 3](#)」へ進みます。

「いいえ」をクリックした場合は、「[ステップ 4](#)」へ進みます。



### ステップ 3

中央に表示されているユーザーリストの一覧より、暗号化ディスクの管理者を選択します。

次に、暗号化ディスク名・ファイルシステム・認証方法の指定を行います。

最後に、「OK」ボタンをクリックして、「ステップ5」に進みます。

ユーザ名	指紋センサー	登録日付	更新日付
sakamoto	SREX-FSU2	2011/1/26	2011/1/26



ユーザ認証で指紋センサーを利用しない場合は、「パスワードのみ」を選択します。

「指紋とパスワードの両方」を選択すると、毎回パスワードと指紋の両方の認証が必要になりますので、セキュリティが高くなります。

### ステップ 4

暗号化ディスクの管理者名、パスワード、パスワードのヒント、暗号化ディスク名を入力し、ファイルシステムを指定して、「OK」ボタンをクリックします。

パスワードの安全性: 中



(1) 複数の暗号化ディスクを接続して使用する場合、暗号化ディスク名は重複しない名前を入力してください。

(2) パスワードは安全性が「中」以上で表示されるデータを使用して頂くことを推奨致します。

3-1.動作環境設定のパスワードチェックの設定で、「安全性の低いパスワードは使用しない。」にチェックが入っているとパスワード登録時安全性の低いパスワードの登録は行えません。

### ステップ 5

入力した内容を確認し、間違いがなければ「作成開始」ボタンをクリックします。



Secure Guard Manager

暗号化を行うと、ディスクのデータは全て失われます。  
下記の内容で暗号化を行ってよろしいですか？

ディスク情報	[G:] RATO USB-IDE Dock USB De
ユーザ名	sakamoto
パスワード	*****
ヒント	誕生日
暗号化ディスク名	Sales Data
認証方式	指紋またはパスワード
指紋センサー	SREX-FSU2

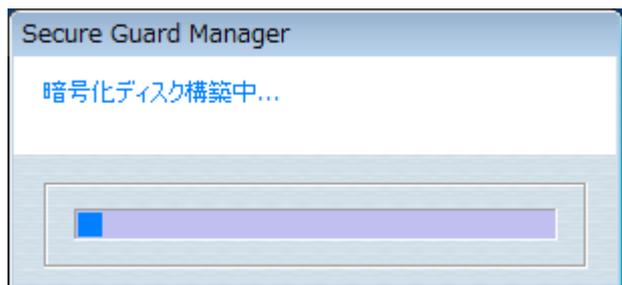
作成開始  キャンセル

### ステップ 6

暗号化ディスク作成中は右画面が表示されます。処理が完了するまで、そのままの状態でお待ちください。



CPU のパフォーマンスにより異なりますが、処理が完了するのに 2~3 分かかる場合もあります。

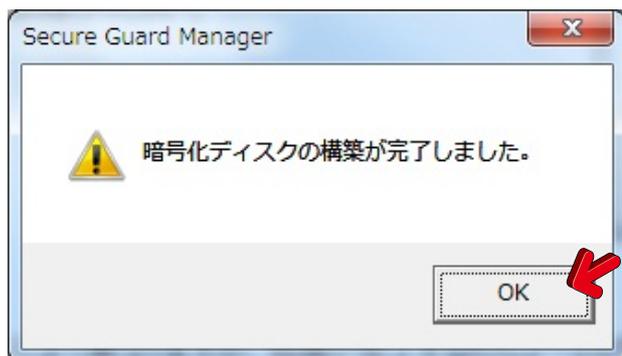


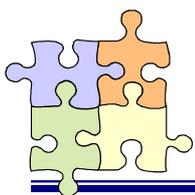
### ステップ 7

暗号化ディスクの作成が完了すると、指定したファイルシステムでフォーマットされた状態になります。



フォーマットが失敗した場合またはファイルシステムで「フォーマットしない」を設定した場合は「ディスクの管理」を起動するか確認するメッセージボックスが表示されるので、「ディスクの管理」でフォーマットを行ってください。





## 2-1. 暗号化ディスクを使用する

暗号化ディスクを使用するためには、メインメニュー画面の「アクセス管理」より暗号化ディスクをアクセス開始状態にする必要があります。アクセス開始後は、通常のハードディスクと同じように読み書きすることができます。



暗号化ディスクを金庫に例えて説明すると、“アクセス開始”とは金庫の鍵が外された状態を表し、通常のハードディスクと同じようにデータの読み書きが行えます。暗号化ディスクに書き込んだファイルは自動的に暗号化してディスクに保存され、暗号化ディスクから読み出す際には自動的に復号化されたデータを読み出すことができます。反対に、“アクセス停止”とは金庫の鍵が掛けられた状態を表し、ファイルの読み書きを行うことはできません。

### アクセス開始状態にする

#### ステップ 1

右画面の状態では、暗号化ディスクのコンディションが「アクセス停止」状態になっていますので、「アクセス開始」ボタンをクリックします。



#### ステップ 2

認証方式を「パスワードのみ」に設定している場合は、ユーザ名とパスワードを入力し、「パスワード認証」ボタンをクリックします。「指紋またはパスワード」に設定している場合は、指紋センサーを利用した認証、またはユーザ名とパスワードによる認証のいずれかの方法で認証を行うことができます。

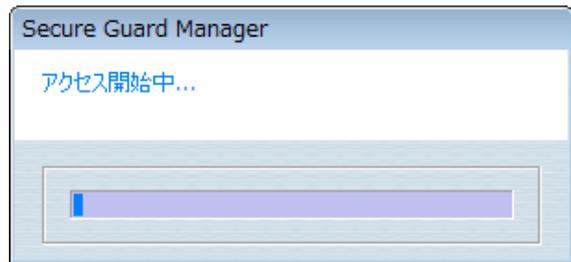
「指紋とパスワードの両方」に設定している場合は、同時に二つの方法による認証が必要になります。



指紋認証を行う場合は、上画面が表示された状態で指紋センサーに指を置いてください。「パスワード認証」ボタンをクリックする必要はありません。

### ステップ 3

右画面のアクセス開始処理が完了するとアクセス開始状態になり、ドライブアイコンが鍵の開いた状態になります。



1. アクセス開始処理に数十秒かかりますので、そのままの状態でお待ちください。
2. ドライブアイコンが変わらない場合は、「F5」キーを押して表示を更新してください。

## ● アクセス停止状態にする

アクセス停止状態にすることにより、暗号化ディスクは読み書きできない状態になります。



暗号化ディスクがアクセス開始状態になっていると、誰でもハードディスクの中のファイルを読み出すことができます。長時間パソコンから離れる場合には、アクセス停止状態にして席を離れてください。

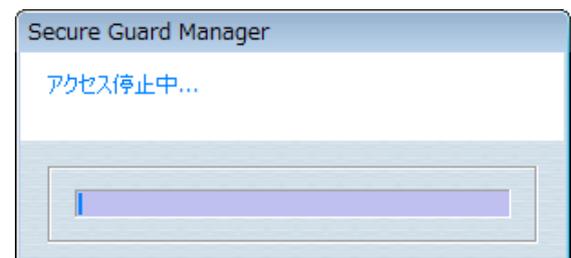
### ステップ 1

コンディションが「アクセス開始」状態になっていますので、「アクセス停止」ボタンをクリックします。



### ステップ 2

右画面のアクセス停止処理が完了するとアクセス停止状態になり、ドライブアイコンが鍵の閉じた状態になります。



1. アクセス停止処理に数十秒かかりますので、そのままの状態でお待ちください。
2. ドライブアイコンが変わらない場合は、「F5」キーを押して表示を更新してください。

## 🌐 エクスプローラのコンテキストメニューからアクセス開始・停止状態にする

下画面のようにエクスプローラのコンテキストメニュー（アイコンを右クリックして表示されるメニュー）より、暗号化ディスクに対してアクセス開始および停止操作を行うことができます。



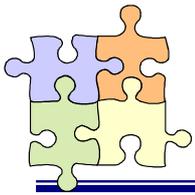
アクセス停止状態の暗号化ディスクは、マイコンピュータにドライブが表示されな  
ないことがあります。

また、暗号化ディスクを作成してもシンプ  
ルボリュームの作成まで完了していない  
場合もドライブが表示されません。シンプ  
ルボリュームが作成されているか確認し  
てください。

## 🌐 暗号化ディスクのドライブアイコン表示

暗号化ディスクのドライブアイコン表示は下画面のようになります。

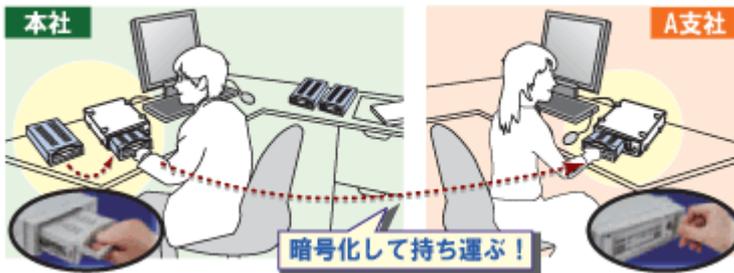
ディスクの状態	固定ディスク	リムーバブルディスク
アクセス開始状態 (鍵が開いたアイコン)		
アクセス停止状態 (鍵が閉じたアイコン)		
メディア取り外し状態		



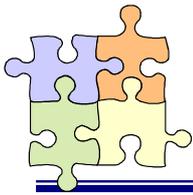
## 2-2. 複数のパソコンで暗号化ディスクを利用

本社と支店のそれぞれのパソコンに弊社のリムーバブルケースを装着し、SGMをインストールしておけば、両方のパソコンで暗号化ディスクを交換して使用することができます。

本社のパソコンから暗号化ディスクの入ったトレイを取り出して支店に移動し、支店のパソコンに暗号化ディスクを装着して使用します。暗号化ディスクからトレイを取り出した状態では、ディスクの中身は暗号化されていますので、万一移動の途中に盗難等の被害にあってもディスクの中身を見られることはありません。



1. 暗号化ディスクの交換利用を行う全てのパソコンには、予めSGMをインストールしておく必要があります。
2. SGMを使用する人が特定の1人に限られている場合は、同時にソフトウェアを使用しないという条件で、その人のみが使用する他のコンピュータにソフトウェアをインストールして使用することができます。
3. 複数の人が複数のパソコンでSGMを使用する場合は、人数分のライセンスを購入して頂く必要があります。



## 2-3. 複数のユーザで暗号化ディスクを利用

複数のユーザが暗号化ディスクを利用するためには、メインメニュー画面の「ディスクユーザ管理」より暗号化ディスクの使用を許可するユーザの追加を行います。また、追加したユーザの変更・削除を行うことができます。



1. 1台の暗号化ディスクに対して、最大30人まで使用許可するユーザを登録できます。
2. 指紋認証を利用する場合、1台の暗号化ディスクに対して異なる型式の指紋センサーを混在して使用することはできません。

メインメニュー画面より「ディスクユーザ管理」を選択します。

右画面より、ユーザの追加・編集を行いたい暗号化ディスクを選択し、「ユーザの追加と編集」ボタンをクリックします。

設定した認証ルールに従って、パスワード認証もしくは指紋認証を行います。



指紋認証を行う場合は、右画面が表示された状態で指紋センサーに指を置いてください。「パスワード認証」ボタンをクリックする必要はありません。

## ユーザを追加する

### ステップ 1

追加するユーザをユーザリストからインポートする場合は、「ユーザリストから追加」ボタンをクリックし“ステップ 2”に進みます。

また、認証に指紋センサーを利用しない場合は、「ユーザの追加」ボタンよりユーザを追加することができます。この場合は“ステップ 3”に進みます。



Secure Guard Manager

ディスク登録ユーザー一覧

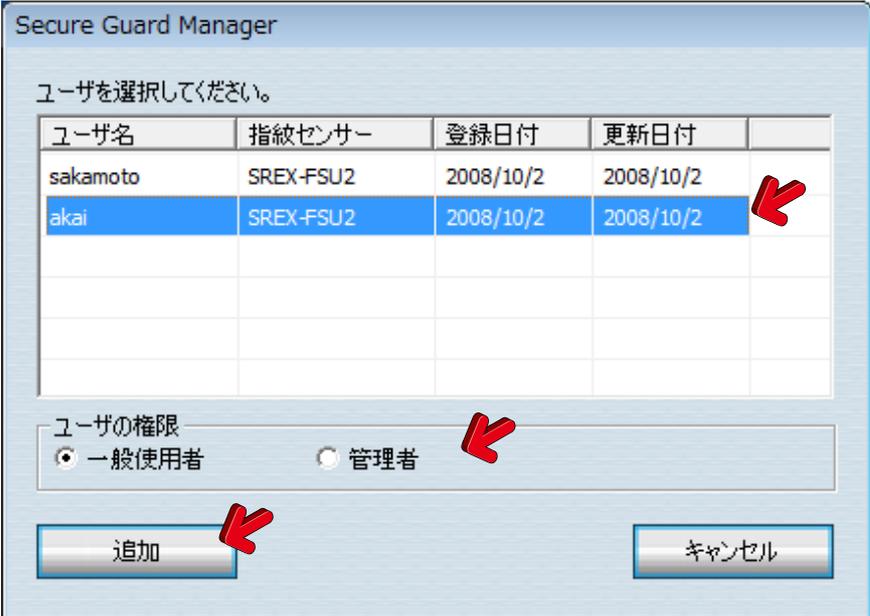
ユーザ名	権限	指紋認証	
sakamoto	暗号化ディスク作成者	有効	

ユーザリストから追加 ユーザの追加 ユーザの変更 ユーザの削除

閉じる

### ステップ 2

上部に表示されているユーザリストの一覧より追加するユーザを選択します。  
次に、追加するユーザの権限を指定します。  
最後に、「追加」ボタンをクリックします。



Secure Guard Manager

ユーザを選択してください。

ユーザ名	指紋センサー	登録日付	更新日付	
sakamoto	SREX-FSU2	2008/10/2	2008/10/2	
akai	SREX-FSU2	2008/10/2	2008/10/2	

ユーザの権限

一般使用者  管理者

追加 キャンセル

### ステップ 3

ユーザ名、パスワード、パスワードのヒントと追加するユーザの権限を指定します。

最後に「追加」ボタンをクリックします。

Secure Guard Manager

ユーザ名を入力してください。  
inoue

パスワードを入力してください。  
\*\*\*\*\*

パスワードを再入力してください。  
\*\*\*\*\*

パスワードのヒントを入力してください。  
誕生日

ユーザの権限  
 一般使用者  管理者

パスワードの安全性  
中

追加 キャンセル



パスワードは安全性が「中」以上で表示されるデータを使用して頂くことを推奨致します。

3-1.動作環境設定のパスワードチェックの設定で、「安全性の低いパスワードは使用しない。」にチェックが入っているとパスワード登録時安全性の低いパスワードの登録は行えません。

### ステップ 4

追加されたユーザがリストの最下段に表示されます。

作業を完了したら、「閉じる」ボタンをクリックします。

Secure Guard Manager

ディスク登録ユーザー一覧

ユーザ名	権限	指紋認証
sakamoto	暗号化ディスク作成者	有効
akai	一般使用者	有効
inoue	一般使用者	無効

ユーザーリストから追加 ユーザの追加 ユーザの変更 ユーザの削除

閉じる



### ユーザの権限について

管理者と一般使用者に与えられる権限の相違を下表に示します。

操作の内容	管理者	一般使用者
暗号化ディスクの読み書きに関する権限	○	○
ユーザ情報の追加・変更・削除に関する権限	○	×

## ユーザを編集する

### ステップ 1

右画面上部のディスク登録ユーザ一覧より変更を行うユーザを選択し、「ユーザの変更」ボタンをクリックします。

ユーザ名	権限	指紋認証
sakamoto	暗号化ディスク作成者	有効
akai	一般使用者	有効
inoue	一般使用者	無効

ユーザリストから追加    ユーザの追加    ユーザの変更    ユーザの削除

閉じる

### ステップ 2

現在ディスクに登録されているユーザ情報が表示されます。登録内容を編集し、最後に「変更」ボタンをクリックするとディスクのユーザ情報が更新されます。



指紋認証を「有効」にすることにより、指紋センサーを利用した認証が行えるようになります。

ユーザ名を入力してください。  
inoue

パスワードを入力してください。  
\*\*\*\*\*

パスワードの安全性: 中

パスワードを再入力してください。  
\*\*\*\*\*

パスワードのヒントを入力してください。  
誕生日

ユーザの権限  
 一般使用者     管理者

指紋認証を有効にする

変更    キャンセル

## 🌐 ユーザを削除する

### ステップ 1

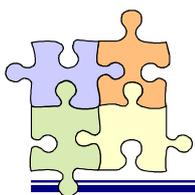
右画面上部のディスク登録ユーザー一覧より削除を行うユーザーを選択し、「ユーザの削除」ボタンをクリックします。



### ステップ 2

最後に削除確認メッセージが表示されます。削除して問題なければ、「はい」のボタンをクリックします。



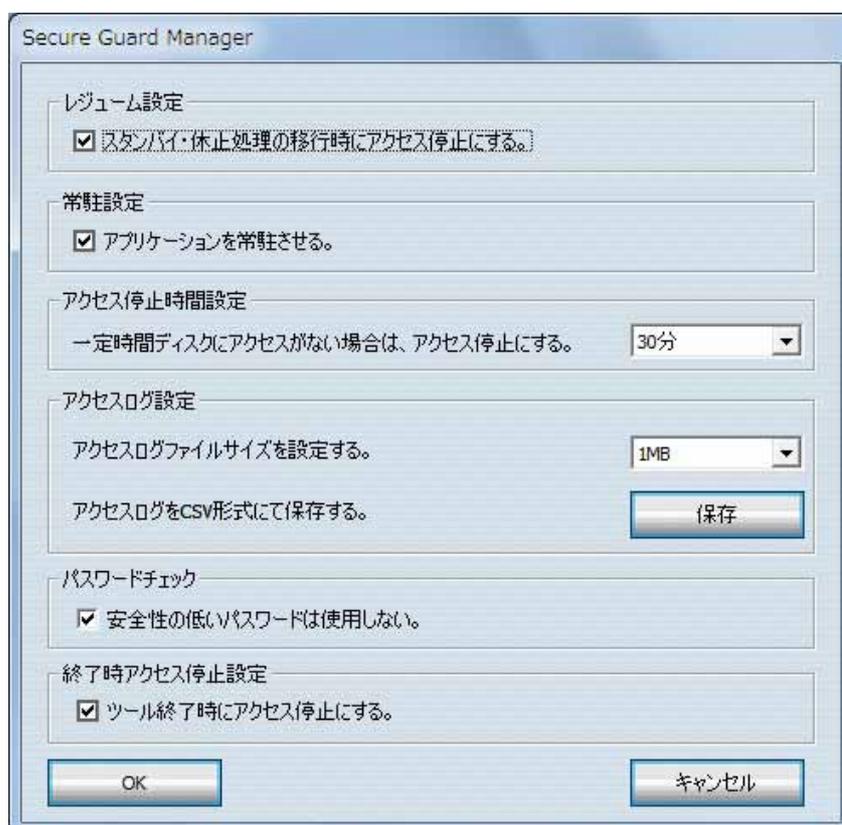


### 3-1. 動作環境を設定する

各種の動作環境設定を行うことができます。

メインメニュー画面から「設定」を選択すると右の設定画面が表示されます。

各項目の内容に関しては、下記解説を参照してください。



#### レジューム設定

「スタンバイ・休止状態からの復帰後、アクセス停止にする。」にチェックを入れると、暗号化ディスクがアクセス開始状態のままスタンバイもしくは休止状態に入り、その状態よりPCが復帰した場合に暗号化ディスクを自動的にアクセス停止状態にします。これにより、第三者に暗号化ディスクの中身を閲覧されるというリスクを軽減することができます。デフォルトの設定は有効となっています。



エクスプローラから暗号化ディスクのドライブを開いたままの状態、もしくは暗号化ディスクに保存されたファイルを開いたままの状態では、上記のアクセス停止処理を行うことはできません。

#### 常駐設定

SGM を OS のスタートアップと同時に自動起動させるか否かの設定を行います。チェックを外した場合は、自動起動しません。Windows のスタートメニューより本ソフトウェアを起動してください。

## 🌐 アクセス停止時間設定

暗号化ディスクに一定時間アクセスが無かった場合、強制的にアクセス開始状態からアクセス停止状態にします。暗号化ディスクをアクセス開始状態のままにして長時間パソコンから離れても、本機能が有効に設定されていれば一定時間経過すると暗号化ディスクはアクセス停止状態になります。第三者に暗号化ディスクの中身を閲覧されるというリスクを軽減することができます。

設定時間に「-」が選択されている場合は、本機能は無効になります。



エクスプローラから暗号化ディスクのドライブを開いたままの状態、もしくは暗号化ディスクに保存されたファイルを開いたままの状態では、上記のアクセス停止処理を行うことはできません。

## 🌐 アクセスログ設定

アクセスログの記録に関する設定と記録されたアクセスログを CSV ファイルに変換し保存します。設定の詳細内容は、「3-2.アクセスログをファイルに記録する」を参照願います。

## 🌐 パスワードチェック

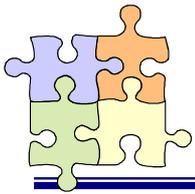
「安全性の低いパスワードは使用しない。」にチェックが入っていると、パスワード登録時安全性の低いパスワードの登録は行えなくなります。デフォルトの設定は有効となっています。

パスワードの安全性を中以上にするためには、英数字もしくは記号の組み合わせで最低 8 文字以上のパスワードを設定してください。

パスワードの安全性に関する強度（弱・中・強）はパスワード登録時（右画面参照）に表示されます。

## 🌐 終了時アクセス停止設定

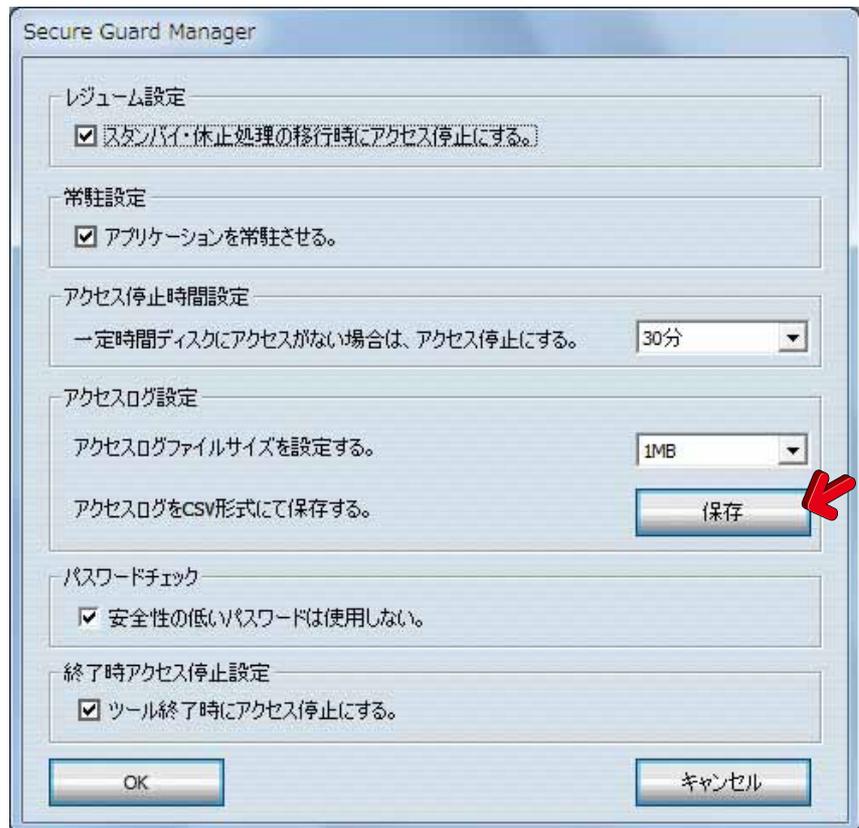
チェックが入っていると、ツール終了時にアクセス開始中の暗号化ディスクがある場合はアクセス停止を行うか確認するメッセージボックスが表示されます。デフォルトの設定は有効となっています。



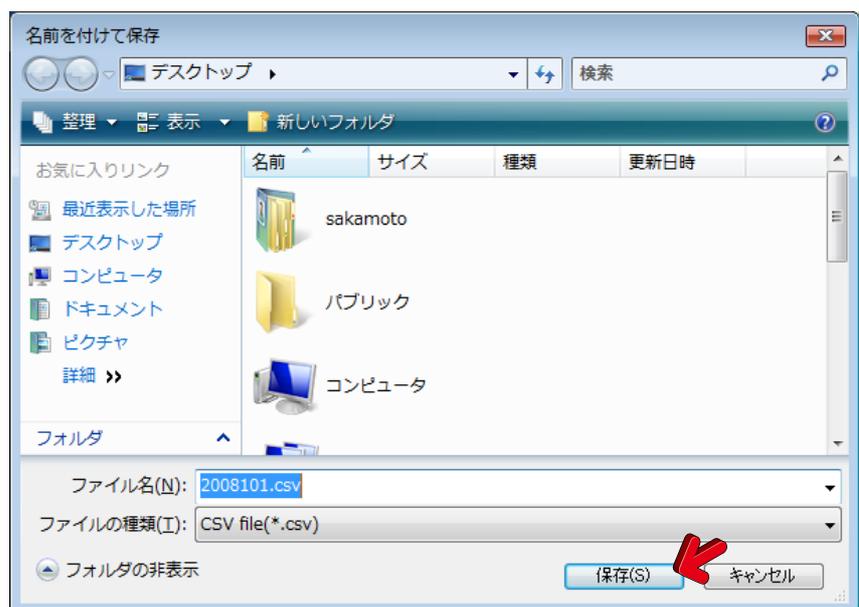
## 3-2. アクセスログをファイルに記録する

アクセスログの記録に関する設定と記録されたアクセスログを CSV ファイルに変換し保存します。

メインメニュー画面から「環境設定」を選択すると右の設定画面が表示されます。  
アクセスログ設定欄の「保存」ボタンをクリックします。

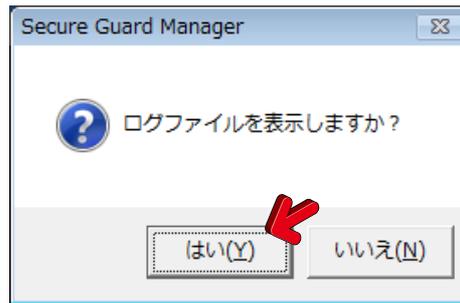


保存場所を指定して「保存」ボタンをクリックします。  
アクセスログがエクセル等で読み込み可能な CSV ファイル形式に変換され保存されます。



アクセスログを表示する場合は、右の画面で「はい」を選択します。

Microsoft Office の Excel がインストールされた環境であれば、Excel 上にアクセスログが表示されます。



## 🌐 ログファイルのフォーマット

CSV ファイル形式に変換されたログファイルの例を下表に示します。

<b>Date</b>	アクセスした日付を表します。
<b>Time</b>	アクセスした時間を表します。
<b>DiskName</b>	暗号化ディスク作成時にディスクに付けた名前が表示されます。
<b>ProductName</b>	ディスクの製品名が表示されます。
<b>Process</b>	アクセスした内容が表示されます。
<b>UserName</b>	アクセスしたユーザ名が表示されます。
<b>Status</b>	“Process”で表示された操作結果が正しく終了しなかった場合にエラーが表示されます。

### ログファイルフォーマット

Date	Time	DiskName	ProductName	Process	UserName	Status
2007-05-11	19:07:39	-		ログファイルのサイズ変更	RATOC	
2007-05-11	19:10:05	SA-DK1EU	RATOC SA-DK1EU USB Device	暗号化ディスク作成	RATOC	
2007-05-11	19:10:42	SA-DK1EU	RATOC SA-DK1EU USB Device	アクセス停止	RATOC	
2007-05-11	19:11:13	SA-DK1EU	RATOC SA-DK1EU USB Device	アクセス開始	RATOC	



1. アクセスログファイルサイズに「-」が設定されている状態では、ログファイルは記録されません。
2. ログファイルのサイズが設定サイズを超えると、最も古いアクセス情報が削除されます。



### 3-3. 暗号化ディスクを通常のディスクに戻す

暗号化ディスクを通常のディスクに戻す場合は、暗号化ディスクの解除処理を行います。



暗号化ディスクの解除処理を行うと、ディスクに保存されたデータは全て失われます。解除処理を行う前にデータのバックアップを行ってください。

#### ステップ 1

メインメニュー画面から「ディスク管理」を選択します。

右の画面より、暗号化を解除したいディスクを指定し、処理選択欄の「暗号化ディスク解除」にチェックを入れて、「OK」ボタンをクリックします。



#### ステップ 2

設定した認証ルールに従って、パスワード認証もしくは指紋認証を行います。

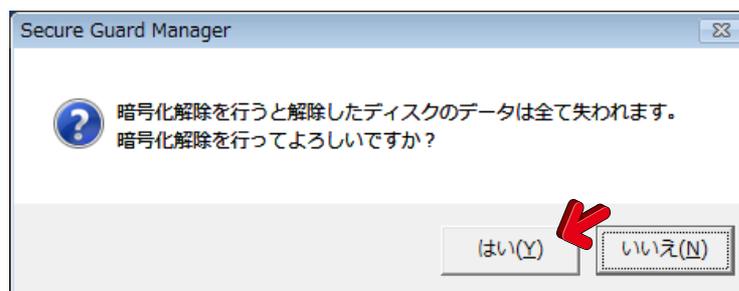


指紋認証を行う場合は、右画面が表示された状態で指紋センサーに指を置いてください。「パスワード認証」ボタンをクリックする必要はありません。



#### ステップ 3

暗号化ディスク解除の最後の確認です。本当に暗号化ディスク解除を行って良いか再確認して、問題なければ「はい」のボタンをクリックします。



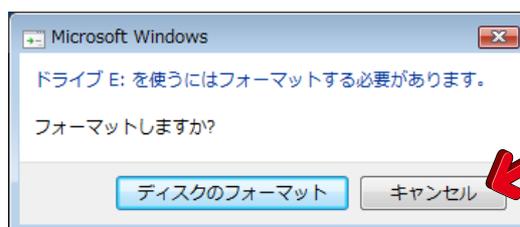
「はい」をクリックするとディスクに保存されたデータは全て失われます。

#### ステップ 4

暗号化ディスク解除中は右の画面が表示されます。処理が完了するまで、そのままの状態でお待ちください。



暗号化解除処理中に、右画面に示す「フォーマットしますか?」というメッセージが表示されることがあります。ここでは「キャンセル」ボタンをクリックします。



#### ステップ 5

暗号化ディスクの解除処理が完了すると、NTFS でフォーマットされた状態になります。



フォーマットが失敗した場合は「ディスクの管理」を起動するか確認するメッセージボックスが表示されるので、「ディスクの管理」でフォーマットを行ってください。





## 3-4. 体験版を製品版として登録する

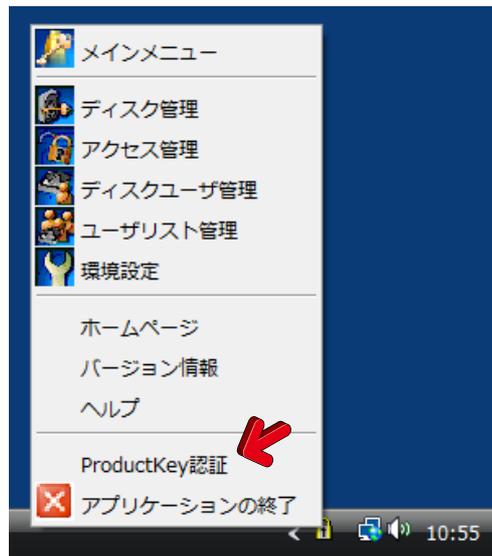
体験版から製品版として使用する場合は、プロダクトキーを購入し下記の手順に従ってプロダクトキーを入力してください。



体験版としてインストールされている場合は、30日の使用期間を経過すると暗号化ディスクの中身が見えなくなります。30日以内に製品版として登録して頂くようお願いします。

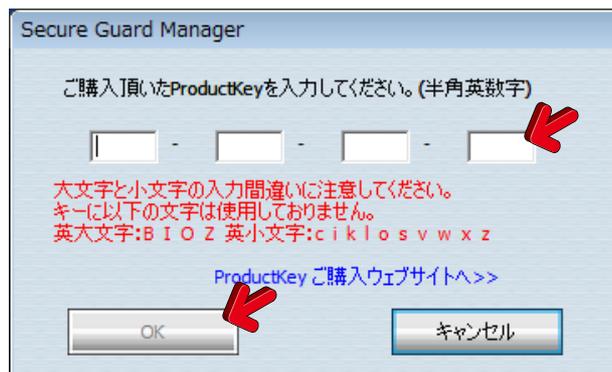
### ステップ 1

タスクバー上のアイコンを右クリックして表示されるメニューより、「ProductKey 認証」を選択します。



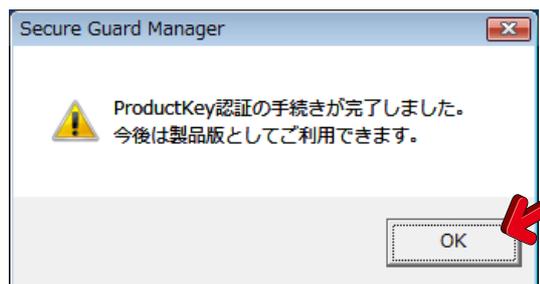
### ステップ 2

プロダクトキーを入力して、「OK」ボタンをクリックします。



### ステップ 3

以上で、製品版登録作業は完了です。





## 3-5. ソフトウェアのアンインストール

ソフトウェアをアンインストールする手順を説明します。



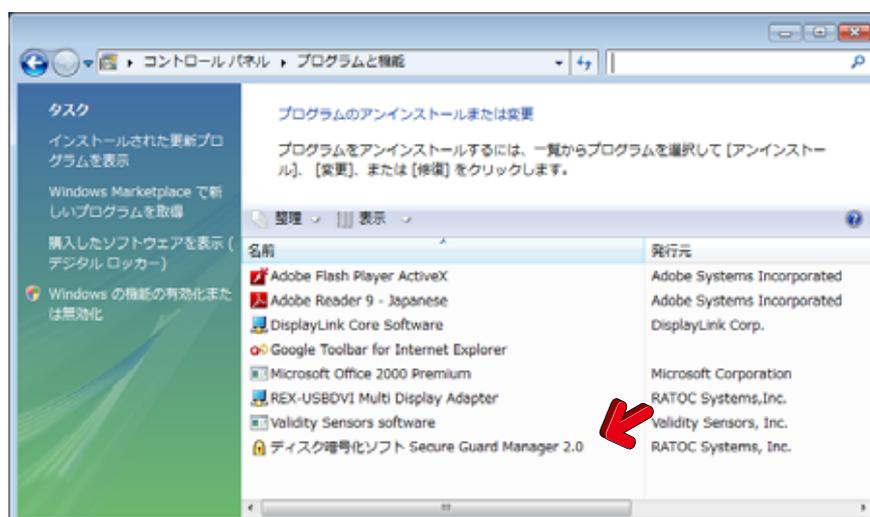
万一、誤ってソフトウェアのアンインストールを行ってしまっても、ユーザ名・パスワードおよび指紋データ等の認証に必要な情報は暗号化ディスクの内部に記録されています。再度、ソフトウェアをインストールすることで暗号化ディスクにアクセスすることが可能です。

### ステップ 1

ソフトウェアのアンインストールは、コントロールパネルの「プログラムと機能」から行います。「ディスク暗号化ソフト Secure Guard Manager 2.0」をクリックしてアンインストールを行ってください。



Windows2000/WindowsXPでは、コントロールパネルの「プログラムの追加と削除」から行います。



### ステップ 2

本当に削除してよい場合は「はい」のボタンをクリックします。



### ステップ 3

削除処理が終了するまで、そのまゝの状態でお待ちください。



### ステップ 4

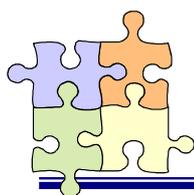
ユーザ登録データも削除したい場合は、「はい」のボタンをクリックします。



### ステップ 5

ソフトウェアのアンインストールは完了です。「今すぐ再起動をします」を選択し、「完了」ボタンをクリックします。





## 3-6. エラーメッセージと対処方法

SGM が出力するエラーメッセージと対処方法について説明します。説明されている対処方法を行っても症状が改善されない場合は、質問用紙に再現方法等に関する内容を記録してサポートセンターに問い合わせを行ってください。

No.	エラーメッセージの内容	対処方法
1	ライブラリ内の必要なハンドルが取得できません。再インストールして下さい。	SecureGuardManager の再インストールを行ってください。
2	SecureGuardManager に必要なライブラリファイルが見つかりません。再インストールして下さい。	SecureGuardManager の再インストールを行ってください。
3	ラトック製暗号化ユーティリティソフトに、必要なサービスが登録されていません。再インストールして下さい。	SecureGuardManager の再インストールを行ってください。
4	SecureGuardManager に必要なサービスが開始していません。ログオフしてから再度実行してください。	ログオフして再度ログインしてから SecureGuardManager を実行してください。
5	SecureGuardManager は、既に起動しています。	二重起動はできません。
6	ProductKey が不正です。確認後、再入力してください。	正しい ProductKey を入力してください。
7	処理を続行するには、管理者権限(Windows)が必要です。	Windows の管理者権限を持つユーザでログインしてから処理を実行してください。
8	既に暗号化がされています。再暗号化はできません。	暗号化ディスク作成の処理は暗号化されていないディスクを選択して実行してください。
9	暗号化されていないディスクです。	暗号化ディスクの解除・設定変更、アクセス開始・停止、ディスクユーザの編集の処理は暗号化されたディスクを選択して実行してください。
10	対応ディスクが接続されていません。接続環境の再確認をお願いします。	対応ディスクを接続してください。
11	指紋センサーが接続されていません。	指紋センサーを接続してください。 指紋センサーが接続されている場合はドライバを再インストールしてください。(9 頁参照)
12	「ディスクの管理」または「コンピュータの管理」が動作している場合、暗号化ソフトの操作が正常に行えない場合があります。「ディスクの管理」または「コンピュータの管理」を閉じて操作を続けてください。	「ディスクの管理」または「コンピュータの管理」を閉じてから、暗号化ディスク作成・解除の処理を実行してください。
13	暗号化ディスクの構築ができません。ディスクの再接続後またはパソコンの再起動後に再度実行してください。	暗号化ディスクを取り外して再接続するかパソコンの再起動を行った後、再度暗号化ディスクの構築処理を実行してください。
14	ディスクの暗号化解除ができません。ディスクの再接続後またはパソコンの再起動後に再度実行してください。	暗号化ディスクを取り外して再接続するかパソコンの再起動を行った後、再度暗号化解除処理を実行してください。

No.	エラーメッセージの内容	対処方法
15	暗号化ディスクの設定変更はできません。ディスクの再接続後またはパソコンの再起動後に再度実行してください。	暗号化ディスクを取り外して再接続するかパソコンの再起動を行った後、再度暗号化ディスクの設定変更処理を実行してください。
16	暗号化ディスクのアクセスの開始設定ができません。ディスクの再接続後またはパソコンの再起動後に再度実行してください。	暗号化ディスクを取り外して再接続するかパソコンの再起動を行った後、再度アクセス開始処理を実行してください。
17	暗号化ディスクのアクセスの停止設定ができません。ディスクの再接続後またはパソコンの再起動後に再度実行してください。	暗号化ディスクを取り外して再接続するかパソコンの再起動を行った後、再度アクセス停止処理を実行してください。
18	暗号化ディスクの登録ができません。ディスクの再接続後またはパソコンの再起動後に再度実行してください。	暗号化ディスクを取り外して再接続するかパソコンの再起動を行った後、再度アクセス開始処理を実行してください。
19	暗号化ディスクのロック処理ができません。暗号化ディスクに保存されたファイルを開いているアプリケーションを終了してから再度実行してください。	他のアプリケーションが暗号化ディスクを使用しています。暗号化ディスクを使用しているアプリケーションを全て終了させてから処理を実行してください。
20	アクセス停止に失敗したのでスタンバイ・休止処理を中断しました。ご利用中の処理を終了するか又はファイルを閉じてから再度実行してください。「スタンバイ・休止のアクセス停止処理」の設定はメインメニュー画面の「設定」-「レジューム設定」で変更することができます。	他のアプリケーションが暗号化ディスクを使用しています。暗号化ディスクを使用しているアプリケーションを全て終了させてからスタンバイ休止処理を実行してください。
21	アクセス停止に失敗したのでログオフ処理を中断しました。ご利用中の処理を終了するか又はファイルを閉じてから再度実行してください。	他のアプリケーションが暗号化ディスクを使用しています。暗号化ディスクを使用しているアプリケーションを全て終了させてからログオフ処理を実行してください。
22	ユーザ情報の追加ができません。ディスクの再接続後またはパソコンの再起動後に再度実行してください。	暗号化ディスクを取り外して再接続するかパソコンの再起動を行った後、再度ユーザ情報の追加処理を実行してください。
23	ユーザ情報の変更ができません。ディスクの再接続後またはパソコンの再起動後に再度実行してください。	暗号化ディスクを取り外して再接続するかパソコンの再起動を行った後、再度ユーザ情報の変更処理を実行してください。
24	ユーザ情報の削除ができません。ディスクの再接続後またはパソコンの再起動後に再度実行してください。	暗号化ディスクを取り外して再接続するかパソコンの再起動を行った後、再度ユーザ情報の削除処理を実行してください。
25	ログファイルの操作に失敗しました。ディスクの再接続後またはパソコンの再起動後に再度実行してください。	一旦パソコンの再起動を行った後、再度ログファイルの処理を実行してください。
26	CSV ファイルの作成に失敗しました。	同じファイル名のファイルが開かれていないか、書き込み可能なフォルダかどうかを確認してください。あるいはパソコンの再起動を行った後、再度 CSV ファイルの作成処理を実行してください。
27	ログデータが存在しません。アクセスログサイズを指定してください。	アクセスログサイズが「-」に設定されていないか確認して、ログファイルのサイズを設定してください。
28	ユーザが選択されていません。	処理を行うユーザを選択してください。

No.	エラーメッセージの内容	対処方法
29	ユーザ情報を取得できません。ディスクの再接続後またはパソコンの再起動後に再度実行してください。	暗号化ディスクを取り外して再接続するかパソコンの再起動を行った後、処理を実行してください。
30	30人以上のユーザの追加はできません。	ひとつの暗号化ディスクに登録するユーザ数は30人までにしてください。
31	入力されたユーザ名は既に登録されています。	既に登録されたユーザを二重に登録することはできません。
32	暗号化ディスク作成者の権限は変更できません。	暗号化ディスク作成者の権限は変更しないでください。
33	暗号化ディスク作成者の情報は削除できません。	暗号化ディスク作成者のユーザアカウントは削除しないでください。
34	ユーザリストに指紋データがありません。指紋認証を利用する場合は、先にユーザリスト管理よりユーザ登録を行ってください。	ユーザリスト管理で指紋登録を行ってから、暗号化ディスクのユーザの指紋情報を追加してください。
35	ユーザ名を入力してください。	ユーザ名を入力してください。
36	パスワードを入力してください。	パスワードを入力してください。
37	暗号化ディスク名を入力してください。	暗号化ディスク名を入力してください。
38	ユーザ名は半角20字・全角10字までです。	ユーザ名は半角20字・全角10字までにしてください。
39	パスワードは半角英数字127字までです。	パスワードは半角英数字127字までにしてください。
40	ヒントは半角字256・全角128字までです。	ヒントは半角字256・全角128字までにしてください。
41	暗号化ディスク名は半角16字・全角8字までです。	暗号化ディスク名は半角16字・全角8字までにしてください。
42	ご利用できない文字です。(*? /...;+=[]""<>¥)	ユーザ名には(*? /...;+=[]""<>¥)の文字は使用しないでください。
43	パスワードが一致しません。再入力してください。	パスワード欄と再入力欄は同じ文字列を入力してください。
44	ユーザ名が正しくありません。再入力してください。	暗号化ディスクに登録されているユーザ名を入力してください。
45	パスワードが正しくありません。再入力してください。	暗号化ディスクに登録されているユーザの正しいパスワードを入力してください。
46	管理者ユーザで行ってください。	暗号化ディスク管理者権限をもつユーザで認証処理を実行してください。
47	パスワード認証時と異なるユーザです。	パスワード認証をした時と同じユーザで指紋認証を行ってください。
48	指紋認証時と異なるユーザです。	指紋認証をした時と同じユーザでパスワード認証を行ってください。



## 3-7. 製品に関するお問い合わせ

本製品に関するご質問がございましたら、下記弊社サポートセンターまでお問い合わせください。お問い合わせの際には、製品マニュアル巻末の「質問用紙」に必要事項をご記入の上、下記 FAX 番号までお送りください。折り返し、電話・FAX またはメールにて回答致します。

なお、ご質問に対する回答は下記営業時間内とさせていただいておりますのでご了承ください。また、質問の内容によりましては弊社にてテスト・チェック等を行う関係上、回答まで時間を要する場合がございますので、予めご了承くださいますようお願い申し上げます。

### お問い合わせ先

ラトックシステム(株) サポートセンター

〒556-0012 大阪市浪速区敷津東 1-6-14 朝日なんばビル

TEL 大阪:06-6633-0190 東京:03-5207-6410

FAX:06-6633-3553(FAX は 24 時間受付)

### 営業時間:

月曜～金曜 10:00～13:00、14:00～17:00

土曜・日曜・祝日及び弊社指定の休日を除く

### ホームページ

ホームページで最新の情報をお届けしております。

また、ホームページ上からのご質問・お問い合わせも可能です。

<http://www.ratocsystems.com>

# Secure Guard Manager 質問用紙

(第2.3版)

ラトックシステム株式会社 サポートセンター宛

お手数ですが、拡大コピーの上必要事項を記入して FAX でお送りください。

**FAX: 06-6633-3553**

氏名			
会社・学校	※法人登録の方のみ		
部署・所属	※法人登録の方のみ		
住所	〒		
TEL		FAX	
メールアドレス			
購入店名			
購入年月日			

パソコン機種	メーカー名		型番	
使用 OS	<input type="checkbox"/> Windows 7 <input type="checkbox"/> Windows Vista <input type="checkbox"/> Windows XP <input type="checkbox"/> Windows 2000			
接続ストレージ	ストレージの種類(HDD、メモリーカード等)・製品型番を記入してください。			
接続インターフェイス	ストレージを接続しているインターフェイス(USB、IEEE1394 等)を記入してください。			
指紋認証装置	<input type="checkbox"/> SREX-FSU1 <input type="checkbox"/> SREX-FSU1G <input type="checkbox"/> SREX-FSU2			
質問内容				



## 個人情報取り扱いについて

ご連絡いただいた氏名、住所、電話番号、メールアドレス、その他の個人情報は、お客様への回答など本件に関わる業務のみに利用し、他の目的では利用致しません。弊社の個人情報取り扱いに関する詳細は、弊社ホームページをご覧ください。

<http://www.ratocsystems.com/info/privacy.html>



© RATOC Systems, Inc. All rights reserved.  
Printed in Japan